

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

前回調査からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、半導体製造装置が、国内外の半導体メーカーのおう盛な設備投資需要を受け、好調だったことや、土木建設機械が世界的な資源開発の活発化などを背景に好調だったことから、2四半期連続で増加している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路が薄型テレビなどのデジタル家電や、携帯電話向けに好調だったことから増加している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）の受注や後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移していることなどから、増加している。繊維は、衣料品は安価な中国製品等との競合により、振るわなかったものの、スポーツ素材向けや、非衣料品が自動車内装材向けに堅調に推移したことからおおむね横ばいとなっている。金属製品は、ビル用が主にマンション向けに伸びていることから、2四半期連続で増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年9月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期		
一般機械	14.8	7.0	4.2	-	-	-	-
電子部品・デバイス	13.8	7.3	4.7	-	-	-	-
化学	12.7	0.7	2.5	-	-	-	-
繊維	12.4	2.1	0.6	-	-	-	-
金属製品	10.6	3.9	4.6	-	-	-	-
鉱工業	100.0	2.4	2.4	-	-	-	-

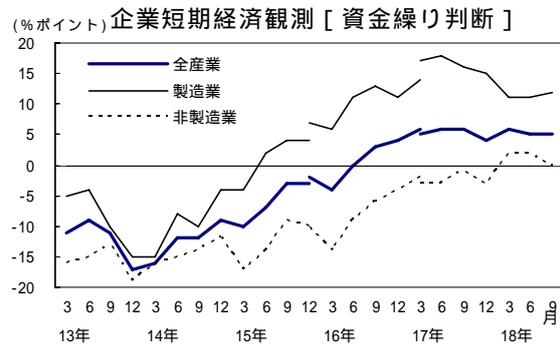
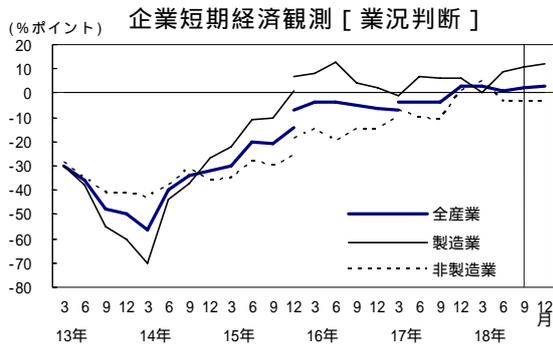
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

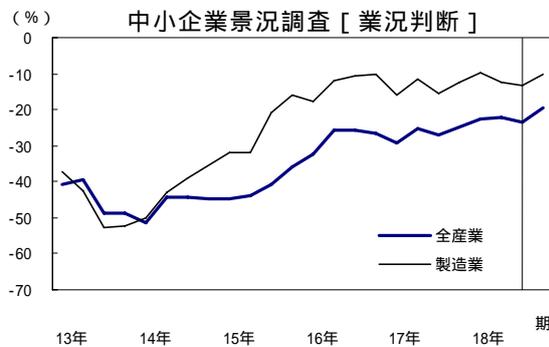
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

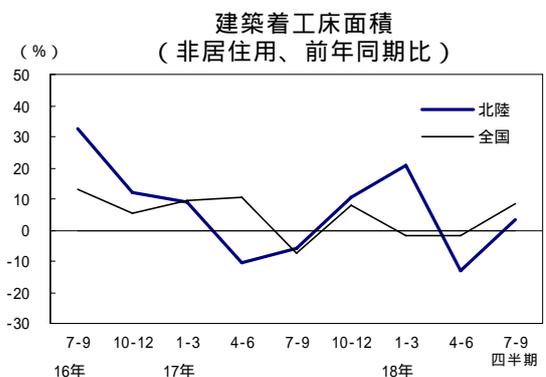
「多品種小ロット化が進んでいるものの、量的には堅調に推移している(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	8.1	15.1(2.2)
製造業	5.9	22.2(1.2)
非製造業	12.6	1.9(4.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、天候不順により水着・浴衣などの夏季商材が振るわなかったものの、クールビズ関連商品や食料品が好調だったことなどから前年を上回った。8月は、気温が高めに推移し、婦人服などの衣料品の他、各種夏季商材が伸びたことなどから前年を上回った。9月は、秋の改装効果により、紳士服や婦人服などの秋物衣料品の他、食料品が好調に推移したことなどから4か月連続で前年を上回った。

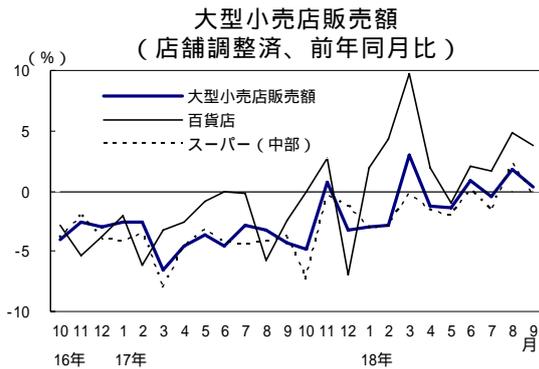
スーパーは、天候不順の影響により野菜の相場が適度に上昇したことや、8月以降天候が持ち直し、衣料品などの夏季商材に動きが出たことなどから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「気温が高かったため、冬物衣料や暖房用品の売上は例年に比べ良くないが、食品ではあまり変化が見られない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	17年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.5	1.1	0.6	0.5
百貨店	2.2	5.4	0.9	3.2
スーパー	3.0	2.2	1.2	0.1
コンビニ	3.9	4.0	2.8	6.1
景気ウォッチャー	48.3	52.3	51.2	46.9

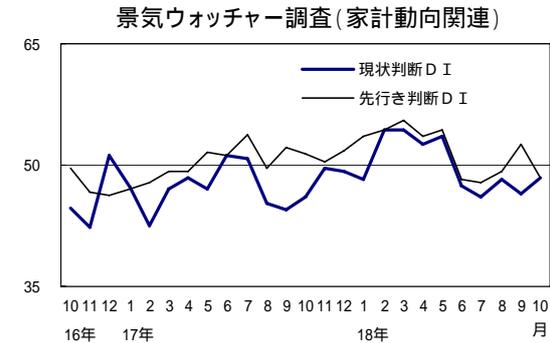
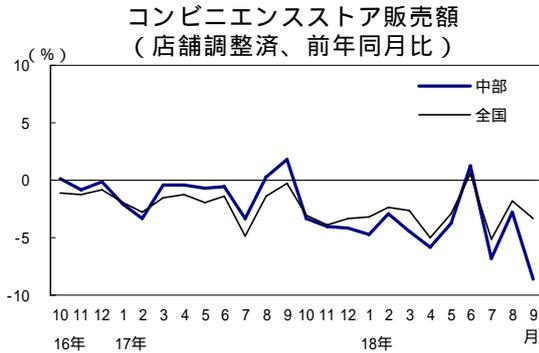


(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

